



こんにちは！東地域支援 上田 生子です。

6月1日（金）ゆいで行われた法人内研修 井上雅彦先生の講義に参加させていただきました。

そのご報告をいたします！

井上雅彦先生は鳥取大学で応用行動分析学（ABA）を基に自閉症スペクトラム・発達障害の研究で著名な方であり、twitter でも幅広く情報を発信されていて、今回の研修でお会いできることをとても楽しみにしていました。



研修の内容は応用行動分析についての講義から2日間で行われた法人内ケースのコンサルテーションのまとめについてお話しいただきました。応用行動分析は行動の前後の環境変化に注目をするもので、『どんな時に』『（その行動が）起こって』『その結果どうなっているか』を明らかにしていくことで、同じ行動に見えるものでも「機能」に着目すると意味合いが変わること、「困った行動」も機能で見ると彼らが何を言いたいのか、強烈な意思表示でもあるとお話しされていました。

私自身、普段の支援の中でも経験則や自分なりの見方で憶測をしてしまうことが多くなりがちですが、「行動観察をして推測、仮説を立てて記録を取りながら、その行動の意味合い（機能）を考える」ことは基本として、データは取っているけれども正確に分析して利用者さんの思いを汲み取ることがきちんとできているだろうか？と振り返る機会になりました。

その他にも印象に残ったキーワードとして、

「誰の、何を解決する必要があるのか（本当に問題なのかどうか）を考える」

「行動を無くすだけでなく、生活の質が向上することを目指すべき」

「プラスを伸ばせば、相対的にマイナス行動が減る」

など問題行動そのものにアプローチするだけでなく、適切な行動への置き換えや楽しいこと、成功体験を増やすことをもっと積極的に実践していかななくては、と感じました。

その前に行われたさりゅうでのコンサルにも参加させていただきましたが、これまでの実践もそんなに間違いではなかった、と感じられることも多く、次々と先生からいただくアイディアに大きな刺激をいただきました。また、学ばせていただく機会があることを心待ちにしています。

